

2021年度大河ドラマ決定！ 渋沢栄一

Introduction

近代日本経済の父と呼ばれる渋沢栄一。偉大な実業家であり、数多くの功績を残した彼は2024年度に新一万円札に登用されることとなりました。そんな彼のことを詳しく知るため、今回は、埼玉県深谷市にある渋沢栄一記念館を訪問しました。

生い立ち

1840年武蔵国榛沢郡血洗島村（現埼玉県深谷市血洗島）の有力な農家にて生まれる。6~7歳頃より漢文を学ぶ。剣術を学んだ後、倒幕を企てるが志士活動に行き詰まり、一橋慶喜に仕えることとなる。そこから大蔵省に出仕し退官後、第一国立銀行の頭取に就任し実業家の道を歩み始める。起業家として470社以上の企業の創立・発展に貢献するとともに公益事業にも尽力した。また、社会福祉事業にも熱心で数多くの病院や学校づくりに尽力したほか、国際親善にも寄与し、世界中の人々と幅広く交流した。



論語と算盤

渋沢栄一を語るうえで欠かせないのが「論語と算盤」という著書です。栄一の生涯を通じての基本理念は「論語」の精神(忠恕のこころ=まごころと思いやり)にあり、単なる利益追求ではなく、「道徳経済合一」による日本経済の発展でした。ここに実業界の指導者としての栄一の偉大さがあるのです。(深谷市渋沢栄一パンフレットより抜粋) 大正時代に書かれた書物ではありますが、今読んでも十分通用する内容です。

振り返り

ではなぜ渋沢栄一は実業家として500もの事業の設立に関与し、社会福祉活動や国際交流にまで尽力できたのか。新一万円札への登用から始まったこの疑問を解決するため、論語と算盤を読み、渋沢栄一記念館を訪問し、彼の足跡をたどりました。

この疑問の鍵となるのは、彼が幼少の頃から学んだ「論語」の精神と、「合理的な経営手法」の二つです。「論語」は自分のためでなく、世のため人のために自分が行動するという公益追求の思いを彼に伝え、磁石のように多くの人々を惹きつけました。また「合理的な経営手法」は彼の事業を根底から支える柱となりました。

これにより、渋沢栄一が関わった多くの事業が、100年以上を経た今も存在しています。彼の遺したものは現代だけでなく、より未来へ受け継がれていくことでしょう。



弊社社員小田と社長の2人で訪問しました！

渋沢栄一の新一万円札が発行される2024年の翌年は、55年ぶりに大阪にて万博が開かれ、多くの外国人観光客が訪れることが予想されています。その時は胸を張って「この人は偉大な近代日本の設計者の一人です」とお伝えできるでしょう。

記念館では彼の遺物や写真などたくさんの資料が展示されており、ガイドの方が親切に解説してくださいます。皆さまもぜひ訪れてみてください。

参考文献
 ・現代誤訳 論語と算盤
 ・渋沢栄一を知る事典